



長嶋 由紀子

リクルートホールディングス
常勤監査役



今
フ
レ
ー
ズ



写真はろう人形館ではなく、正真正銘 THE ROLLING STONESと共にバックステージで納まったものである。昔からのファンである。が、実際に握手し、言葉を交わし、肩まで組める日が来るなんて夢のまた夢。正に Dream come true ! の出来事であった。周囲からは、全ての運を費やした、とまで言われ、考えた。「メガトン級の夢が叶ったのは事実。が、それは結果であり、過程に何があった？ ラッキーなだけか？」と。

私がバックステージパスを入手できたこと、本写真の商業目的以外の使用許可を得ているのは、当然ながらコンサートを商業的に支えたクライアント企業の存在あってのことである。では私が当時、その企業にとってVIPであったか？といえ
ばNoである。いいところVIPの知人の、そのまた知人程

度であろう。

このわらしべ長者的なネットワークの起点は無論私である。年齢四十ぐらいか
らか、自分自身が、何が得手で、何が苦手か、平たく言えば嗜好の好き嫌いの類
いまで表出することを常とするようになっていた。個人で負える仕事に限界を感じ、であればチームで補完

してもらおう、という虫のいい魂胆から発したものであるが、利には適っており、得手で思い切り走る代わりに、苦手は相当カバーしてもらってきた。そんな日常態度の一コマに「ストーンズに首ったけ」というフレーズがあったに違いない。

お陰様で経年とともに、苦手は少々減った気はする。が常に「今ここ」で生きる、勝負するいうときに大切なことは、己を知り、それを恐れなく周囲にシェアできることではないかと考える。が、年齢五十を過ぎた今でも、もうちょっとマシになってからシェアしたい、と思うことだらけである。が、「今ここ」の精神で素の自分になれることが最強であり、Dream come trueの近道であることを、この写真が折々戒めてくれる。